



中央アジア地域ニュース

アゼルバイジャン：プーチン露大統領の中央アジア歴訪 (5月12-13日付現地各紙)

ロシアのプーチン大統領は、5月10-12日にカザフスタン及びトルクメニスタンを訪問した。同訪問及び11-13日に開催されたポーランド・エネルギー・サミットに関する現地報道。

1. 12日付「ゼルカロ」紙

プーチン大統領のカザフスタン及びトルクメニスタン訪問は、ポーランド・エネルギー・サミット開催による参加諸国の求心力を挫くために行われた。しかしながら、ロシア、カザフスタン、トルクメニスタンの結集力はさほど強くない。カザフスタンは、これまで中央アジア諸国による同盟結成を呼びかけてきたが、国内に多く住むロシア人の存在を考慮し、今回のプーチン大統領の訪問受け入れを決めたのである。カザフスタンがロシアによるパイプラインの独占的管理を排除し、同国を通過しないエネルギー搬出ルートを獲得する日はそう遠くないであろう。

2. 12日付「エコー」紙

ナザルバエフ・カザフスタン大統領は、プーチン大統領の同国訪問を渋々受け入れ、ポーランド・エネルギー・サミットへの参加を断念した。アゼルバイジャンのエネルギー専門家は、カザフスタンがこれまで目指してきた同国産石油のBTCパイプラインへの接続構想が、今回のプーチン大統領の中央アジア歴訪によって挫かれることはないとしている。

3. 12-13日付「アザドルク」紙

アリエフ大統領は、ロシア離れを引き続き推し進めており、「反露」フォーラムであるポーランド・エネルギー・サミットに参加し、ロシアと西側のエネルギー争奪戦において西側に与するとの立場を旗幟鮮明にした。

4. 12日付「イエニ・ムサヴァト」紙

アリエフ大統領は、反露的なポーランド・エネルギー・サミットに参加した。ロシアはこれに対抗してアゼルバイジャンに新たな圧力を掛けるだろう。ロシアが、同国に居住するアゼルバイジャン人に対し、ロシア語運用能力試験の受験を課す等の対応に出てくる可能性がある。